

令和4年度 農作物病虫害発生予察4月月報

令和4年(2022年)5月2日
山口県病虫害防除所

I 気象概況

アメダス山口県山口地点

月・半旬	気 温 (°C)								
	平均			最高			最低		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
4.1	10.4	11.8	△ 1.4	18.1	18.0	0.1	3.2	6.1	△ 2.9
4.2	15.3	12.7	2.6	24.3	19.0	5.3	7.1	7.0	0.1
4.3	17.1	13.6	3.5	21.5	19.8	1.7	14.1	7.8	6.3
4.4	14.7	14.4	0.3	23.0	20.6	2.4	7.1	8.7	△ 1.6
4.5	17.3	15.2	2.1	22.4	21.3	1.1	13.7	9.4	4.3
4.6	18.2	16.2	2.0	23.3	22.3	1.0	14.1	10.3	3.8
平均・計	15.5	14.0	1.5	22.1	20.2	1.9	9.9	8.2	1.7
月・半旬	降水量(mm)			日照時間(h)					
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
4.1	0.0	24.8	△ 24.8	52.2	28.7	23.5			
4.2	0.0	25.7	△ 25.7	54.9	29.4	25.5			
4.3	22.5	27.5	△ 5.0	11.3	30.2	△ 18.9			
4.4	0.0	29.9	△ 29.9	49.8	30.7	19.1			
4.5	25.0	30.4	△ 5.4	14.4	31.4	△ 17.0			
4.6	119.0	29.6	89.4	28.4	32.3	△ 3.9			
平均・計	166.5	167.9	△ 1.4	211.0	182.7	28.3			

II 作物の生育状況

- (1) コムギ : 出穂期は概ね平年並みであった。(昨年よりも1週間程度遅い) 出穂前後の低温により、穂揃いまでの期間が長く、また開花期もバラついた。
凍霜害により一部白穂となったものがある。
- (2) ナシ : 開花始めは、平年並みから平年より2日程度早かった。4月3日から5日にかけて、一部産地で霜害が確認された。開花直前の気温の低下により、一部産地では開花の品種間の差が短くなり、多くの品種が一斉に開花する状況が見られた。
- (3) イチゴ : 1～2番果の出蕾遅れの影響で、春先にかけても出荷量の増減の波が大きい。早いものは5番果の収穫、6番果が出蕾・開花している。5月末まで出荷が続く見込みである。
- (4) タマネギ : 生育は昨年に比べ遅れているものの、平年並みで推移している。

Ⅲ 病害虫の発生状況

1 普通作物

2022年4月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積(ha)
イネ イネミズゾウムシ	予察灯(県内4か所、4月1日～4月24日合計)における誘殺数は0頭(平年0.2頭)で平年並みであった。	—	—
コムギ (調査ほ場数:17) 赤かび病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並みであった。	—	—
うどんこ病	中旬の巡回調査では、発生は認められず平年並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年1.8%)、発病葉率0%(平年0.4%)、発病面積率0%(平年0.0%)で平年並みであった。	—	—
黄斑病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率5.9%(平年21.2%)、発病茎率5.9%(平年9.6%)、発病度1.5(平年2.8)で平年に比べやや少なかった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率17.6%(平年25.9%)、発病茎率17.3%(平年16.4%)、発病度4.2(平年4.8)で平年に比べやや少なかった。	県内全域	中 274

2 果樹

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積(ha)
ナシ (調査ほ場数:15) 黒斑病 (二十世紀:9)	下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並みであった。	—	—
黒星病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年1.3%)、発病葉率0%(平年0.0%)、果そう基部発病率0%(平年0.1%)で平年並みであった。	—	—
赤星病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年2.1%)、発病葉率0%(平年0.2%)で平年並みであった。	—	—
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率40.0%(平年2.1%)、寄生葉率0.5%(平年0.0%)で平年に比べ多かった。	県内全域	少 66
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率6.7%(平年4.8%)、寄生新梢率0.1%(平年0.1%)で平年に比べやや多かった。	県内全域	少 11

ナシ チュウゴクナシキ ジラミ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成1.5%)、寄生葉率0%(平成0.0%) で平成並みであった。	—	—	
ナシヒメシクイ	フェロモントラップ(萩市小川、4月1日 ～4月25日合計)における誘殺数は96頭 (平成110.9頭)で平成並みであった。	—	—	
キウイフルーツ (調査ほ場数：3) かいよう病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 33.3%(前年33.3%)、発病葉率0.1% (前年1.0%)であった。	下関市	少	1

3 野菜

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積(ha)	
イチゴ (調査ほ場数：17) うどんこ病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 23.5%(平成27.1%)、発病株率5.1% (平成5.7%)、発病葉率1.3%(平成 1.9%)、発病果率0.4%(平成0.8%)で 平成並みであった。	県内全域	中	5
			少	15
			計	20
灰色かび病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 23.5%(平成19.7%)、発病株率2.1% (平成1.5%)、発病果率0.3%(平成 0.4%)で平成並みであった。	県内全域	中	10
			少	10
			計	20
菌核病	下旬の巡回調査では、発生は認められ ず、平成並みであった。	—	—	
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 17.6%(平成19.5%)、寄生株率2.1% (平成3.6%)で平成並みであった。 主要種はワタアブラムシであった。	県内全域	少	15
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 52.9%(平成51.5%)、寄生株率18.4% (平成25.3%)で平成に比べやや少な かった。 主要種はナミハダニであった。	県内全域	多	5
			中	15
			少	25
			計	45
コナジラミ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 47.1%(平成35.7%)、寄生株率13.2% (平成14.4%)で平成並みであった。 主要種はオンシツコナジラミであっ た。	県内全域	甚	5
			多	5
			中	5
			少	25
			計	40
アザミウマ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 35.3%(平成48.8%)、寄生花率8.6% (平成9.4%)で平成並みであった。 主要種はヒラズハナアザミウマであっ た。	県内全域	甚	10
			多	10
			少	10
			計	30

タマネギ (調査ほ場数：中旬 28、下旬24)	中旬の巡回調査では、発生ほ場率 10.7%(平成14.4%)、発病株率1.4% (平成2.9%)で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率 45.8%(平成22.8%)、発病株率6.5% (平成8.7%)で平成に比べやや多かつ た。	県内全域	中 28 少 49 計 77
べと病			
白色疫病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成4.4%)、発病株率0%(平成0.3%) で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.8%)、発病株率0%(平成0.2%) で平成並みであった。	—	—
腐敗病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率3.6% (平成11.7%)、発病株率0.1%(平成 0.6%)で平成に比べやや少なかった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成11.1%)、発病株率0%(平成 0.7%)で平成に比べ少なかった。	県内全域	少 7
ボトリチス属菌に よる葉枯れ症(白 斑葉枯病)	中旬の巡回調査では、発生は認められ ず平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.4%)、発病株率0%(平成0.0%) で平成並みであった。	—	—
さび病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.7%)、発病株率0%(平成0.1%) で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.5%)、発病株率0%(平成0.1%) で平成並みであった。	—	—
軟腐病 萎黄病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認 められず平成並みであった。	—	—
萎縮病	下旬の巡回調査時に、山口市で発生を 認めた。	山口市	少 1
ネギアザミウマ	中旬の巡回調査では、発生ほ場率3.6% (平成11.6%)で平成に比べやや少な かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率 16.7%(平成22.9%)で平成並みであつ た。	県内全域	少 28

お問い合わせ先
山口県病害虫防除所
TEL (083)927-4006
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp